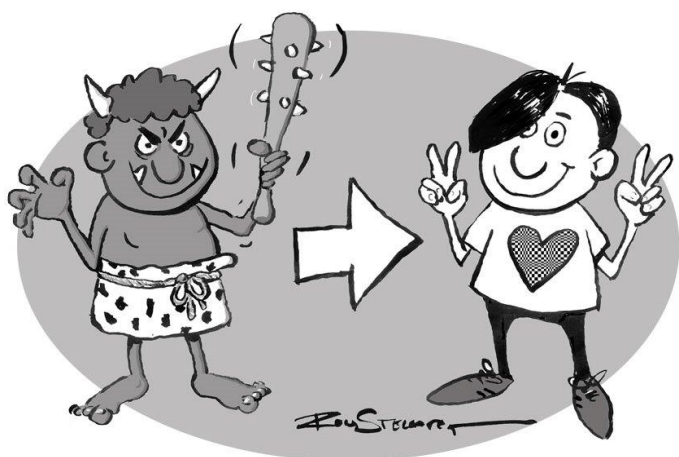


私には大学院で知り合って20年余りの韓国人の友人がいます。彼が私にこう言ったことがあります。「日本に来るまで日本には鬼が住んでいると思ってたけど、来てみて、人間が住んでるとわかりました」。彼は激しい反日教育を受けた世代で、それ故に日本人は彼にとって「鬼」でした。この話を聞いて、「やはり韓国は反日」と思うかもしれません。一方、私も日本で「韓国は反日だ」と聞いて、びくびくしながら十数年前韓国に行きました。それから毎年2回程、調査や観光で韓国に行きますが、それも誤解でした。



ある国や人々を理解する時に、私たちは他人の話を聞きます。しかし、それが事実だとは限りません。昔の話であったり、ある意図があったり、限られた経験に基づくものだったりします。もし外国の人が1, 2回日本に来ただけで、または誰かの話を聞いただけで、「日本はこういうところだ」と語ったら、それも悪い形で理解していたら、みなさんはどう思うでしょうか。「そんなこともあるかもしれないけど、それは日本の一部だよ」と言うと思います。他の文化や民族を理解することは、そう簡単ではありません。

接したこともないのなら、なおさらです。「鬼」にもなります。

ところが、私たちは聞いた話や限られた経験に基づき、ついつい単純化して語ってしまいます。だからこそ「自分が知っている姿は一部かもしれない」と思うべきです。「独島(竹島)は韓国のものだ」と突然怒った韓国人のおじさんも、列車の中で偶然隣に座った日本人の私にリングを分けてくれた韓国人のおばあさんも、韓国の姿の一部だと私は思っています。

文：県立広島大学 上水流久彦 講師

イラスト：県立広島大学 ロナルド・スチュワート 准教授

2014(平成26)年 広報あきたかた 5月号掲載